

平成30年11月7日(水)

老球の細道446号

## 日本人2人目のNBA選手誕生！

会津バスケットボール協会 室井 富仁

米プロバスケットボール協会(NBA)のメンフィス・グリズリーズに所属する渡辺雄太(24)が10月27日(日本時間28日)本拠地テネシー州メンフィスであったフェニックス・サンズ戦で途中出場し、日本選手として2004年にプレイした田臥勇太(Bリーグ栃木)以来14年ぶりに2人目のNBA出場を果たした。

サッカーや野球などではすでに日本人選手が本場のヨーロッパやアメリカに進出してプレイする選手が二けたを超えているが、バスケットボール界においては世界最高峰のNBAの壁は高く厚い。ここにきて2人目が輩出したが、いずれ会津からも1人くらいは。

閑話休題。NBAの歴史をたどると、米国バスケットボール界にプロが初めて登場したのは1896年のことだとされている。ニュージャージー州都トレントンのフリーメンソンの集会ホールで史上初のゲームが行われたという。

バスケットボールは1891年にマサチューセッツ州のスプリングフィールドのYMCAでJ・ネイスミス(11月5日誕生日)によって創られた。その後人気が出てYMCAの体育館がバスケットボールで独占されるようになった。すると他のスポーツ団体から批判の目をあびるようになり、各地のYMCAの体育館から締め出されるようになった。

体育館を追い出されたバスケットマンたちは、ゲームができる場所を自分たちで見つけた。時にはダンスホールであったり、集会ホールだった。それらの場所は使用料を払わなければならない。初めはその使用料をチームのメンバーで割り勘にして捻出したが、観客数が増加し、観客にコート使用料の負担を求め、それが入場料となった。そうしてお金を払ってゲームを観戦するプロバスケットボールが誕生したのである。

会津地区にNBAを目指す子どもはいるのか。先日Bリーグの試合があいづ総合体育館で開催された。二日間とも観客数が600人台であった。せっかく身近でプロのゲームを見るチャンスがあるのに1,000人も入らない。また会津協会主催で行っている「アスリート教室」に中学3年生の参加はほとんどない。そもそも中学3年生の中体連終了後から高校までのブランクを補おうとスタートしたのだが、肝心の3年生は「受験勉強」という理由(?)で日曜日2時間、10回の講習会に参加して基本を見直すという意欲はない。

バスケットボールに限らず何事においても最高峰を目指すには強烈な情熱と努力を要する。今が二流、三流でも目指すは超一流と、常にチャレンジと努力を重ねることで、自分でも考えられないくらい高みに到達した人間はたくさんいる。要は本人の意識の高さ、そしてそれを後押しする保護者、指導者のさらに高い意識と情熱だろう。

『天才の勉強術』(木原武一著)の中に次のような文章がある。

「親(指導者)は自分の子供(選手)の能力をいかに過大評価してもしすぎることはなく、そういう“親馬鹿”こそ、子供の持てる力を伸ばす立派な親なのである。過大に見積もって悪いはずがないのに、それを穏当なところで評価して、ある限界のなかでしか子供を見ることができないのが“馬鹿な親”なのである」

戊申150年、この会津の地から世界を股にかけけるバスケットボール選手、コーチが育たない限りは、私はまだまだ棺桶に片足をを入れるわけにはいかない。老害は憤慨する。